



Title	後期授業概要(配布資料)
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2006, 15, p. 20-20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/11226
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

洛星高校 「哲学」 後期授業概要

2005 年 10 月
大阪大学大学院 臨床哲学研究室

この授業の目的は、生徒のみなさんとの対話を中心に「哲学する」ことにあります。つまり、われわれが先生役になって一方的に情報提供することが目的ではなく、みなさんがテーマについて考えたこと、普段考えていることを発言してもらうことを手がかりにして、みんなでテーマについて考えることを目的としています。

前期に引き続き、後期も授業を行いたいと思います。前期は「生命」と「環境」をテーマにとりあげ、テーマに即した問いについてディスカッションや「対話ゲーム」を行いました。後期は「身体」と「笑い」をテーマにとりあげたいと思います。

〈後期〉

10 月 29 日：身体①「我々は物にどのように出会っているか」

講師：玉地 雅浩（藍野大学 講師）

あたりまえのことですが、体を動かすには感じるのですが、体を感じるには動くことが必要となります。議論というよりも体験を通して、感覚や運動について考えたいと思います。

11 月 5 日：身体②「老いる」を哲学する

講師：西川 勝（大阪大学 CSCD 教員）

高校生のみなさんにとって「老いる」というのはどんなイメージでしょうか。高齢者介護の現場で僕がナースとして考えたことを中心に対話を試みます。

11 月 19 日：笑い①「おもしろさを人に伝えることができるか」

講師：武田 朋士（大阪大学 臨床哲学 博士後期課程）

5 分程度のビデオ（漫才）を見て、そのどこがどうおもしろかったのか、おもしろくなかったのかを少人数のグループに分かれてそれぞれ話してもらう。そうして「おもしろさ」が客観的に存在するものなのかどうかを検討する。

11 月 26 日：笑い②「何がおもしろさをつくるのか」

講師：武田 朋士（大阪大学 臨床哲学 博士後期課程）

前回の体験をもとに、哲学者、社会学者、心理学者などの「笑い」「おもしろさ」に関する理論を、皆で検討する。そうして「おもしろさ」をつくるメカニズムを少しでも明らかにすることを目指す。同時に、「笑い」が日常的にどのような場面で、どのような機能を果たしているかにも接続できればと思う。

12 月 3 日：「全体のふり返り」

1 年間をふり返って、みなさんの感想（もしくは不満？）などを手がかりに、授業の改善点などについて話し合いたいと思います。